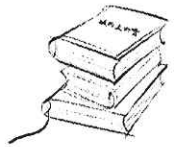




# 「坂の上の雲」を読み返し。



昨年12月に二年連続して「坂の上の雲」を放映していました。本年12月にも第三部が放映されるようです。テレビを見て改めて司馬遼太郎の同小説を読み返してみました。「坂の上の雲」は、著者が史実に基づいて執筆したと公表していますが、事実誤認の箇所が何カ所かあるようですが、「明治」の時代背景をかなり正確に伝えていると思います。

明治時代活躍した政治家、軍人は皆「国のため、国民のため」を願って堪え忍び、日々研鑽を積み、重要な決断を下していったことが良くわかります。弱肉強食の帝国主義の時代では、些細な判断ミスが国家存亡に至る可能性が大きい時代でした。現在の価値基準では絶対に計り知れない時代背景であったことは間違いありません。

明治天皇、兄玉源太郎、東郷平八郎、伊藤博文、小村寿太郎、高橋是清、桂太郎、金子堅太郎等々々たる人々が、「死を覚悟」して自分に与えられた職務を全うする姿は時代を超えて心打つものがあり我々に感動を与えてくれます。

翻り、現代の政治家はどうでしょうか？

金満政治家、無責任政治家、有言不実政治家、自国侮辱政治家、大根役者政治家・・・これでも国会議員か？と疑いたくなるような政治家があまりにも多すぎます。日本の将来について真剣に考え、実行して行く気概が全く感じられないのは私だけではないと思います。政府の閣僚でも、これでも閣僚？と首を傾げたいような吾人が多いのは残念でなりません。脱税をしていたのに「修正申告すれば良いでしょう」と発言したハトポポ元総理大臣。大金持ちなので納税が国民の義務であることをご存じ無いと見受けれます。隣の国に行き、従軍慰安婦と呼ばれる人々と一緒にバツが描かれた日章旗の前で「日本は謝罪と賠償しろ！」と拳を上げて叫んだ反日左翼前国家公安委員長。技術のことは何一つ解らないのに、「二番じゃダメなんですか？」と言いつつ特命大臣。秋篠宮ご夫妻に「早く座れよ！」と暴言を吐いた元国家公安委員長。皇室に対する畏敬の念も何もありません。これでも日本人か？と疑いたくなります。

前政権も政策実行力では問題があったことは否めません。

しかし、現政権はこれに五重、六重に輪を掛けた程の不実行内閣、不誠実内閣であると言わざるを得ません。政治理念も信念も何も持ち合わせないど素人集団が、国会議員になれば金が儲かると集まった烏合の衆であると言えませぬ。

長妻元厚生労働大臣にしても、「年金の長妻」と大袈裟に言われていましたが、年金しか理解できない大臣であったとのこと。また、

事細かく膨大な調査資料を官僚に要求し続けたため、厚労省の職員が資料作りに大幅な残業を余儀なくされたことは報道のとおりです。自分の机から落ちた書類を局長に拾わせ「これがおまえの仕事だ」と言い放ったことは有名な話です。権力とは何か、国を治めるとは何か、国益とは何か、意味を全くはき違えているとしか言いようがありません。

「政治主導」とは、政治家が担当案件について官僚より理解し適切な判断をすることにより初めて成し得ることなのです。仮に間違った判断をした場合は、速やかにその対処を行い、責任を取るのが本当の政治家だと思います。明治時代の政治家は、重要な交渉においては死を覚悟して事に当たったと聞きます。まさに命を掛けた気迫が感じられます。

今後は、今の政府は全くあてにできません。自力で何とかしなければならぬと考えています。我々中小企業に対する施策は充実されず、日本から「ものづくり」の製造業が益々減って行きます。日本は「ものづくり国家」でなければ生きて行く道は無いらぬと考えていますが、最早、風前の灯火になっています。「産業構造の変革」と言えば聞こえが良いのですが、極端な言い方をすれば中小製造業を見捨てることだと思います。

「一に雇用、二に雇用、三に雇用」この言葉は全く意味不明です。経済状況が好転し、各産業が発展することにより雇用が増大することは明白です。社員を新たに雇用すると政府から「愛い会社じゃ。面倒を見てやるぞ」とでも言って保護してくれるのでしょうか？

「今までは仮免許でしたが、これからは・・・」と発言した総理大臣には呆れ果てます。

仮免許のヨタヨタ運転に国民を同乗させるな！ 事故ったらどないすんねん！（もうすでに事故ってますが・・・）、事故するのはアンター人してくれ！国民を道連れにするな！！坂の上の雲を読み返し、改めて現在の政治家の信念の欠如、政治倫理の欠如、軽薄さを痛感しているのは私だけでは無いと思います。



新和商事株式会社  
代表取締役 森下 喜郎

◆ 「てんこもり」の印刷や編集にお世話を頂いております、株式会社「ヤマイチテクノの川原康平主任」からメッセージを頂戴いたしました。

Q. 現在のお仕事の内容をお教え下さい。

A. 主にコピー・各種出力・製本やオンデマンド印刷の業務をしております。「オンデマンド印刷」とは、「必要なものを、必要な時に、必要なだけ」印刷するシステムです。フィルム製版、CTP 刷版といったオフセット印刷に必要な工程が無く、デジタルデータを直接出力します。これにより、10部・50部などの小部数の印刷物を速く・お求め易い価格帯でご提供する事が出来ます。短納期、小部数を優先されるお客様のニーズにしっかりと応え致します。

Q. 日常業務を遂行するために心掛けておられることはありますか。

A. お客様との「対話」を重視しています。お客様が今何を必要とされているか？をきちんと理解し、提案していく事を心掛けています。私が担当しておりますお客様は、長くお付き合いさせて頂いている方々が多く、深く掘り下げたお話を聞かせて頂けます。また、新しくご担当させて頂くお客様にもコミュニケーションをしっかりと取ってお客様のニーズを確認し、個々のお客様に即したご提案を出来るように日々営業活動しております。

Q. 業界の状況をお教え下さい。

A. 昨今市場では、原油価格の高騰により紙自体の価格が値上がりしました。また電子書籍やipodなど、電子媒体を多く使用する傾向があり、コピーの仕事はかなり減ってきております。現在、紙媒体の需要と電子媒体の需要が徐々に逆転しており、紙媒体しか取扱わない業者が、それを必要とするお客様へと集中し価格競争が起っています。これが現在のコピー印刷業界の現状です。当社はそのような両方のニーズにもお応え出来る体制を整えておりま

すので、何なりとご相談下さい。

Q. 新しく社会人となる人に先輩から一言お願いします。

A. 新しく社会人になる方へ、皆さんはこれまでに勉強やアルバイトあるいは遊びなどのいろいろな体験を通して、違うテーマに興味を持ったり、世代の違う方等、色々な人々と出会うことがあったと思います。その際に、新たな発見をしたり、自分自身を改めて見つめ直す事が出来たという貴重な経験を多々お持ちではないでしょうか。これから社会人となる皆さんは、仕事に携わる中で今までとは全く違う体験をしたいと思います。

営業の仕事に於いては、やりがいや喜びをお客様との関わり合いの中に見出す事が出来ます。大切な事は「お客様とのコミュニケーション」だと思います。

お客様に信頼を得て、自分自身の提案が認められ、ご契約を締結頂いた時のお客様への感謝の気持ちと喜びや達成感は、営業の仕事の醍醐味と言えます。

皆さんの中には、営業以外の仕事に就く方もいらっしゃると思いますので、「上司」・「同僚」とのコミュニケーションも大切にして、社会人として最初の第一歩を踏み出して下さい。

Q. VECてんこもりをご担当頂いておりますが、ご感想をお願いします。

A. 私が「てんこもり」のオンデマンド印刷をご担当させて頂いてから、3年目に入りました。ある意味、私も「てんこもり」の愛読者の一人です。校正という仕事の中で、全ての文章に目を通していくのですが、皆様方の貴重なご意見や体験談など、日本だけに留まらず海外からのレポートも掲載され、本当に幅広い分野に渡る熱のこもった文章をいつも大変興味深く拝読させて頂いております。

これからも皆様に喜ばれる「てんこもり」を100号200号と目指して継続されていく事を期待しております。





## ～チャレンジャー&ベンチャー～ 「人のお役に立ちたい」



「何で保険の仕事してるの？」 ですよ～。  
実は、私が一番びっくりしているのですけど、よく聞かれる質問です。私も自分が保険の仕事をするなんて夢にも考えていなかったんですよ。前職では、某スポーツ用品のメーカーで人事をしていました。仕事は充実し、身近なGOODSも社員販売で買えますし、有名選手とも仲良くなれましたし、本当に大好きな仕事でした。しかも、私、保険って実は、大嫌いだっただけです。皆さんもそうではないでしょうか？ だから、私に保険の仕事の話が来た時は、「冗談じゃない、保険屋のおばちゃんになんかなりたくない！」って今から思うと失礼な話だと思んですが、すぐに断りました。それが、今の上司から、「本当の保険の話」を聞いたときに、目からうるこだったんです。

私はその時、人事という仕事柄、社会保険についても詳しいですし、生命保険についても完璧だと思っていたので、その意義を知ったとき本当に驚きました。自分の大切なお金が倍になるかもしれないし、なくなってしまうかもしれない話です。間違えれば後悔するかもしれませんが、ちゃんと理解して正しく付き合えれば幸せになれる話なんです。

人事の仕事は、人のためにと思って出来る仕事でしたが、それ以上に保険の仕事は人の役に立てる仕事だと思えるようになりました。だから「本当の保険の話」を私のお世話になった人、大切な人に伝えて行きたい、それが出来るのは私しかいないと考え、現在に至っています。

外資系の保険会社に入って3年目です。世界の保険外交員の営業成績上位6%ほどが入会できる「MDR T」という会がありますが、昨年の営業実績で加入させて頂くことが出来ました。（日本においてはわずか上位1%ほどしか入会できません。）

日本では多くの保険外交員がいる中で、入会出来るだけの成績をあげられたなんて・・・と思っています。でもそれは、いつも助けて下さるお客様、家族、友人が、周りにいて下さるからこそです。どんな時も励ましていただき、応援して頂いて、それが毎日を生懸命働く原動力となっています。本当にありがとうございます。

そこに大切な人がいる限り、これからも一生懸命に知識と経験を積んで、大切な方お一人お一人オーダーメイドのオンリーワンのライフプランを作り、皆様に愛されるオンリーワンのサービス・アドバイザーを目指していきます。今の目標は1000人のお客様を持つ事です。1年で100名の10年計画です。今後もお客様と共に生きていきたいと思っています。変わらぬご指導ご鞭撻の程どうぞよろしくお願い致します。

プルデンシャル生命保険株式会社 竹本 亜紀

取り上げられ、ブームになった。

休日の本四連絡道が休日に片道千円になったこともあり、関西のみならず全国から「うどんオタク」が大挙して、香川に集まった。近頃はそのブームは去り、以前の静けさに戻ったようである。さぞかし、うどん業界は活況を呈していたと思われたかもしれないが、意外にも製麺業者の廃業が増えている。販売していた町の八百屋が減り、大手うどん店は自社製麺し、家庭用も冷凍製品とスーパーでの購入が増加しているからである。廃業予定のうどん店に後継者がUターンしたという効果もあったようであるが、さぬきうどんブームは、人が一時的に集まっただけに終わったようである。知名度が一段と上がったからであろうか、「讃岐セルフうどん」として、大手外食チェーンがうどん店を全国展開し始めた。香川の人たちには、うどんは日常食であり、3日に2回は食しているようである。統計からもうどんの消費量は断トツに日本一である。そして、地元ではうどんの玉そのものも。うどん店のメニューも非常に安い。私の、勤務時代の部下で、香川大学出身者は、「学生るとき、ポケットに百円玉が数枚しかなくても、何日かは、うどんで生き延びられた」とのことである。確かに、香川県下の大学近隣のうどん店には「学割」まである。なじみになると、大学生には、大きい声ではいえない秘密の特典もあるらしい。数百円で何日も生き延びられたゆえんか。

＜次号へ続く＞

笠井経営コンサルタント事務所 代表者 笠井 裕

## ベンチャー支援機関による合同交流会を開催！！

各機関の協働により第2回合同交流会が開催されます。各機関が関与しているベンチャー企業へのサポートや、大阪での後進育成に取り組んでおられる企業経営者との交流、各機関間の相互協力等が目的で60名程度の参加を見込んでいます。

合同で行うことによりベンチャー企業に対しての支援拡充や大阪経済の活性化に貢献して行けるよう関係者一同は願っております。

ご支援、ご協力よろしくお願い致します。

◆ 開催日時：平成23年3月15日（火）12：00～15：00

◆ 場 所：大阪産業創造館 4F

主催団体：

- ・大阪産業創造館IAG（インキュベーション・エンジェルグループ）
- ・大阪商工会議所
- ・関西ニュービジネス協議会
- ・大阪NPOセンター
- ・ベンチャーエンタープライズセンター 関西支部

## 「まちおこし」と「B級グルメ」に思う ＜前編＞

－「さぬきうどん」はいかが－



最近マスコミに、「B級グルメ」で「地域振興（まちおこし）」をというキャッチフレーズをよく目にするようになった。B-1グランプリなどの大会も各地で開催されている。そこでの上位は、焼きそば系、ホルモン（もつ）関連が多い。また、讃岐うどんのエピソードとともに「食文化」についても述べてみたい。「まちおこし」はさまざまな意味を持っているが、とりあえずは一定の地域を常に、にぎやかにさせておくこと、としておこう。

「B級グルメ」が地方を救う。「B級グルメ」で「まちおこし」。その筋書きは以下のごとくである。まず、B級グルメ大会において有名になり、B級グルメの地に人が押し寄せる。そこでは、にぎやかさが戻り、消費が増え、まちが活性化する。というのが筋書きである。確かに人は集まるが、それは飲食店に集まるのであって、飲食店業界の活性化に過ぎない。食べれば帰るだけである。その来訪者を他の消費に結びつける力は、観光地を除き、その地域（商店街）にはないのが現状である。集まった人にどうして欲しいのかが本題なのに、展望が欠如しているのでは。

「食」の局面で、最近までブームであった、讃岐うどんを実例を見てみよう。うどんの歴史、雑学的知識も、おまけにどうぞ。数年前に「恐るべき讃岐うどん」という単行本が出版された。香川丸亀の学生たち（麺通団）が、こつこつ集めた「うどん情報」が地域情報誌に掲載され、その集大成が本になったものである。それを契機に雑誌、テレビに華々しく、これでもかというほど、

## ～VEC関西より～

◆ 大企業の3月決算予想がどんどん発表されています。どこもかなりの増益です。今そんなに景気がいいのでしょうか？夜の盛り場を歩くとどの店も閑散としています。小企業、ベンチャーの活性化を目指しベックの役割の重さを感じます。（本田）

♥ 友人に誘われるままサントリー山崎蒸溜所での「シングルモルト&ショコラ」セミナーに参加しました。樽の種類により熟成後は味わいのあるウイスキーが完成するとのこと。で各々熟成別のウイスキーとそれに合うチョコレートで楽しみセミナー最後に今、流行の「ハイボール」のおいしい作り方を実践しつつも違うその「まるやかさ」は自画自賛でした。（濱本）

◆ 今月は色々な分野でご活躍されている方々から、それぞれのメッセージを頂きました。独立された方もあり、ご発展をお祈り致します。（澤村）

◆ <交流会>

平成23年4月12日（火） 財）ベンチャーエンタープライズセンター  
理事長 市川 隆治 様



☎06-6263-0366

皆様からのご意見・ご要望お待ちしております！